

カイツブリ（カイツブリ科） 全長26センチ

大浦沼周辺の田んぼの収穫は終わりを迎え、すっかりと秋の装いに変わってしまった。

9月下旬、冬鳥の先陣を切って僅かながらコガモが飛来した。まだ警戒心があるのか、車や人の姿を見るだけで一斉に飛び去ってしまう。

留鳥のカルガモが元気に餌を食べているところへ、一段と小さなカイツブリが悠然と泳いできた。頭部に縞模様が残っていることから、今年産れた若鳥と思われます。頻りに素潜りを繰り返しているが、なかなか獲物は捕れないようだ。警戒心がないのか徐々に近づき、すぐ目の前で潜水を繰り返した。



大浦沼で見られる水辺の野鳥では一番小さい。

その時です。カイツブリが潜ると水中から小さな魚が飛び跳ねました。

カイツブリに襲われ逃れようと、水面に飛び上がったのでしょうか。後日、魚に詳しい方に映像を見せたところ、ブラックバスの幼魚だそうなんです。特定外来種があちこちで増えすぎて困っている話を聞くが、大浦沼も例外ではありません。

浮巢を作り子育てするバンとカイツブリ。大浦沼では普通に繁殖している野鳥であったが、10年程前から年々少なくなり、今では全く見られなくなってしまった。



両側の頬にある横縞がまだ若い証拠。



小さくてまん丸の体は、まるでぬいぐるみです。

ブラックバスの繁殖とルアーフィッシングによる釣り人が増えたことによる環境の変化が原因ではないかと考えているが、どうでしょうか。



最接近。体全体の羽は水をよく弾くようだ。



ブラックバスの幼魚。増えては欲しくない魚である。